

2015年度事業報告

1. 常設委員会の活動

(1) 理事会・総会

- 1) 2015年度理事会、総会等を下記の日程で開催した。
理事会：2015年4月11日(土)、5月23日(土)、6月13日(土)、7月11日(土)、
8月24日(月)、10月3日(土)、12月5日(土)、2016年3月5日(土)
定時社員総会：2015年6月13日(土)
臨時社員総会：2015年8月25日(火)

(2) 運営委員会

- 1) 新たに事務局員を採用し、阿江副会長を事務局長として業務の体制を整えた。
- 2) 事務局及び事務局員の労働環境改善のための方策を検討した。
- 3) 2020年東京オリンピック・パラリンピック関連の国際会議について、2016年ブラジル・サントス市で開催される国際学会への視察派遣等の準備を進めた。
- 4) 日本スポーツとジェンダー学会と協力し、人権侵害及びスポーツの価値を貶める表現がなされたインターネット上の動画について、動画を掲載した国内テレビ局への公開質問状を送付し、再発防止に向けた活動を行った。

(3) 庶務委員会

- 1) 2015年度事業計画の実行を諸委員会と連携を図りながら進めた。
- 2) 2014年度事業報告を作成した(定時社員総会承認)。
- 3) 2017・2018年度役員選挙の準備を行った。
- 4) 2016年4月1日付け名誉会員について検討した(臨時社員総会承認)。
- 5) 2016年度事業計画(案)を作成した(臨時社員総会承認)。
- 6) 地域組織との関係のあり方について検討した。
- 7) 2016年度からの運用開始に向けて会員データベースシステムの構築を行った。
- 8) 2015年度学会賞等の選考を「学会賞選考委員会」において実施した(臨時社員総会時に授与)。
- 9) 2015年度浅田学術奨励賞の選考を「浅田学術奨励賞選考委員会」において実施した(臨時社員総会時に授与)。
- 10) 学会賞・浅田学術奨励賞受賞論文の国際誌への二次出版について、諸規程の整備・改正を行い、2015年度の対象論文を選定した。
- 11) 諸規程(会員情報管理、委員会幹事、特定個人情報取扱等)の整備・改正を行った。
- 12) 東日本大震災被災会員への2015年度会費の免除処置を行った(免除適用会員5名)。
- 13) 大阪地域の名称を大阪和歌山地域と変更することを承認した(定時社員総会承認)。
- 14) 電子図書館(NII-ELS)事業の終了に伴い、日本体育学会予稿集の移行先について検討した。
- 15) 会員数(2016年3月31日現在)

正会員：6,095名（2015年3月31日、6,231名）、賛助会員：7名、名誉会員：144名、購読会員：82名

(4) 会計委員会

- 1) 2014年度収支決算書を作成した（定時社員総会承認）。
- 2) 地域及び専門領域への補助金の配分を行った。
- 3) 2015年度補正予算を作成した（臨時社員総会承認）。
- 4) 2016年度予算書を作成した（臨時社員総会承認）。
- 5) 日本教育シューズ学校体育振興基金に補助金申請を行い、補助を受けた。
- 6) 職員・役員等の旅費にかかる規程について検討した。
- 7) 特定資産積立の運用について検討した。

(5) 「体育学研究」編集委員会

- 1) 「体育学研究」第60巻をオンラインジャーナルとしてJ-Stageに掲載し、冊子体の印刷配布を行った。
- 2) 第60巻2号に国際誌からの二次出版論文1篇を掲載した。
- 3) 国際誌への二次出版投稿申請を4件受け付けた。
- 4) CiNiiに収録している第50巻以前のバックナンバーをJ-Stageへ移行申請した。

(6) 「国際誌」編集委員会

- 1) 「International Journal of Sport and Health Science」第13巻をオンラインジャーナルとしてJ-Stageに掲載した。
- 2) 第13巻に「体育学研究」からの二次出版論文4篇を掲載した。

(7) 学会大会委員会

- 1) 第66回大会において、本部企画（キーノートレクチャー、パネルディスカッション、シンポジウム）、（公社）全国大学体育連合との共催シンポジウム、若手研究者交流会を準備した。
- 2) 第66回大会発表者のために、2015年度特別共同研究者の認定を行った。
- 3) 第67回大会（2016年8月24日-26日）を大阪体育大学（Dブロック）と連携を図りながら準備した。
- 4) 第68回大会を静岡大学（Cブロック）において開催することを決定した。
- 5) 第69回大会の担当地域（Eブロック）の代表者と主管校選定のための検討会を開催し、主管校候補を募った。
- 6) 特別共同研究者登録申請書を電子書式化し、第67回大会から運用できる準備をした。
- 7) 学会大会における一般発表の資格に関して、第68回大会から学部生が特別共同研究者になることができるよう学会大会の開催に関する規程の運用を見直した。
- 8) 第67回大会の事前参加申込方法及び予稿集の配付方法について検討した。

(8) 国際交流委員会

- 1) 第 66 回大会（於 国士舘大学、8 月 25 日-27 日）に本部企画の基調講演講師としてオットー・シャンツ教授（コブレンツ・ランダオ大学：ドイツ）を招聘した。
- 2) 学術交流協定に基づき、中国体育科学学会から 2 名の参加を第 66 回大会に受け入れた。
- 3) 阿江通良会長（筑波大学）がアジア太平洋運動スポーツ科学大会（於インド、10 月 14 日-16 日）に招聘を受け、インド体育学会との学術交流協定（5 年）を締結した。
- 4) 学術交流協定に基づき、ドイツスポーツ科学学会大会（於マインツ、9 月 30 日-10 月 2 日）に岡出美則国際交流委員会委員（筑波大学）を派遣した。また、ドイツスポーツ科学学会との学術交流協定を一部修正し、5 年の延長更新の同意にいたった。
- 5) 講師派遣の依頼を受け、水上博司会員（日本大学）を台湾体育学会大会（於台北、10 月 31 日）に派遣した。
- 6) 学術交流協定に基づき、田畑泉副会長（立命館大学）、樋口満会員（早稲田大学）を、中国体育科学学会大会（於杭州、11 月 5 日-9 日）に派遣した。
- 7) 日本体育学会の常設委員会の英語表記についての検討を行った。
- 8) 学術交流協定締結学会（ドイツスポーツ科学学会、台湾体育学会、中国体育科学学会、韓国体育学会、インド体育学会）に第 67 回大会（於大阪体育大学、8 月 24 日-26 日）への招聘案内を行った。
- 9) 国際交流に関わる情報を収集し、学会ホームページを通して会員に随時通知した（6 件）。

(9) 企画委員会

- 1) 第 66 回大会の本部企画（基調講演）を国際交流委員会と連携して立案した。
- 2) 第 66 回大会の本部企画（パネルディスカッション）を政策検討・諮問委員会、ダイバシティ推進小委員会と連携して立案した。
- 3) 第 66 回大会の本部企画（シンポジウム）を体罰・暴力根絶特別委員会と連携して立案した。

(10) 広報委員会

- 1) ホームページ（日本語版及び英語版）の充実と活性化について検討を重ねると共に、他委員会との連携、他機関とのリンク等を進めた。
- 2) 各種情報の収集（教員公募・学会開催等）とホームページ上での周知を行った。
- 3) ホームページ上に、社員総会・学会賞等の受賞・第 66 回大会（国士舘大学）報告等を掲載した。
- 4) ホームページに掲載する簡単な案件については、事務局と広報担当が更新作業を行えるようにした。
- 5) 日本体育学会監修『スポーツ科学事典』の販売促進を第 66 回大会で行った。

(11) 研究倫理委員会

- 1) 倫理審査機関・組織を有しない会員を対象とした倫理審査のための委員会規程、運営要領等の最終調整を行った。
- 2) 倫理審査機能以外の役割（倫理要綱等）について検討した。

(12) 政策検討・諮問委員会

- 1) 「体育学の展望」「若手研究者育成」「ダイバシティ推進」の3つの小委員会を前期に引き続き設置し、検討会議を重ねた。
- 2) 第67回大会の本部企画シンポジウムを提案した。

(13) 学術連合連携委員会

- 1) 日本スポーツ体育健康科学学術連合の運営委員会に出席した。
- 2) 第1回日本スポーツ体育健康科学学術連合大会（於国土舘大学、8月24日）に参加した。

(14) 男女共同参画委員会

- 1) 阿江美恵子（東京女子体育大学）、北村勝朗（東北大学）、山口香（筑波大学）、三木ひろみ（筑波大学）の4名で委員会を構成し、体育学会の役員比率等の現状確認を行った。

2. 特別委員会の活動

(1) 国際会議準備特別委員会

- 1) 2020年に日本で開催が予定される International Convention on Science, Education and Medicine in Sport (I.C.S.E.M.I.S.) について、ICSSPE 事務局（ドイツ、ベルリン）と連絡を取りながら、情報の収集に当たった。
- 2) 2016年にブラジルのサントスで開催予定の I.C.S.E.M.I.S. に、視察及び情報収集のため、本委員会の委員2名が派遣されることになった。

(2) 学習指導要領検討特別委員会

- 1) 良質の保健体育授業の保証にむけた検討を継続するとともに、「学習指導要領の改訂に向けたプロジェクト研究調査研究報告書」（日本体育科教育学会、体育科教育学専門領域）等の学習指導要領改訂に関する情報を収集した。

(3) 指導者育成・資格特別委員会

- 1) 3回の委員会と1回の部会を開催し、その他に SNS を利用して意見交換を行った。
- 2) 体育・スポーツ指導者検定制度について、日本体育協会が検討を進めているモデルコアカリキュラムとの連携することを視野におき、海外動向などの情報収集に努めた。
- 3) 2015年度に体罰・暴力根絶特別委員会が開発した運動部指導のためのコアカリキュラムの試行について検討した。
- 4) 教職課程の必修体育の内容と方法について、中央教育審議会教員養成部会での審議状

況の情報収集に努めた。そして、日本教育大学協会の協力を得て、国立大学教育学部等での実施状況調査を行った。2016年7月に開催される日本体育科教育学会でラウンドテーブルを開く準備を進めた。

3. 第66回大会の開催

第66回大会を、2015年8月25日(火)から27日(木)までの3日間の会期により、国士館大学世田谷キャンパスにおいて開催した。発表演題数は799題であった。

事業報告の附属明細書(案)

1. 学会賞・学会奨励賞・浅田学術奨励賞の選考・授与

学会賞候補として21編、学会奨励賞候補として19編の推薦があり、学会賞選考委員会(三木ひろみ委員長)において審査の結果、下記の通りそれぞれを候補とし、2015年7月11日開催の理事会において決定し、8月25日の臨時社員総会で授与した。

学会賞

寒川 恒夫 日本武道と東洋思想
平凡社(発行日:2014年11月19日)

学会奨励賞

朝倉 雅史 他 体育教師の信念が経験と成長に及ぼす影響:
「教師イメージ」と「仕事の信念」の構造と機能
「体育学研究」第59巻第1号 29-51頁

浅田学術奨励賞候補の推薦があり、浅田学術奨励賞選考委員会(大友 智委員長)において審査の結果、下記の通りそれぞれを候補とし、2015年7月11日開催の理事会において決定し、8月25日の臨時社員総会で授与した。

体育哲学

竹村 瑞穂 競技スポーツにおける身体的エンハンスメントに関する倫理的
研究:より「よい」身体をめぐって
「体育学研究」第59巻第1号 53-66頁

体育科教育学

荻原 朋子 他 中学校体育授業における素朴概念修正のための学習指導方略の検
討:バレーボール単元におけるオーバーハンドパスを対象として
「体育学研究」第59巻第2号 639-652頁